

Food, for ages 0-100

05.11期 中間決算説明会

2005年7月15日

原料高への対応力を高め、事業の競争力を強化

Food, for ages 0-100

キューピー株式会社

問い合わせ先

総務部長 長谷部 敏朗

TEL 03-3486-3331

FAX 03-3498-1806

E-mail toshiro_hasebe@kewpie.co.jp

05.11期 中間業績報告

- (注)
- ・表示単位未満の数値を四捨五入しています。
 - ・「限界利益」は売上総利益から販売促進費や物流費などの販売直接費を控除した利益です。

中間業績まとめ

売上は順調、大幅な原料高が利益を圧迫

(億円)

	04.5期	05.5期	前年差	前年比	05.5期 期初計画
売上高	2,058	2,253	195	109.5%	2,237
限界利益	258	236	22	91.5%	-
営業利益	83	58	25	69.9%	68
経常利益	82	56	26	68.3%	66
中間純利益	35	22	13	62.9%	28

05.5期業績を04.5期業績と比較する際には、以下の内容を考慮してご確認ください。

事業	内容	売上高	限界利益	営業利益
タマゴ事業	素材品の販売移管による決算期調整の戻り	+70億円	+7億円	+1億円

原料高（鶏卵・食油）の限界利益への影響

— 大幅な影響を改善努力で軽減 —

(億円)

《前年差》	上期実績	下期見通し	年間見通し
原料高の影響	47	8	55
6事業の 改善努力でカバー	25	22	47
上記による 限界利益影響	22	14	8

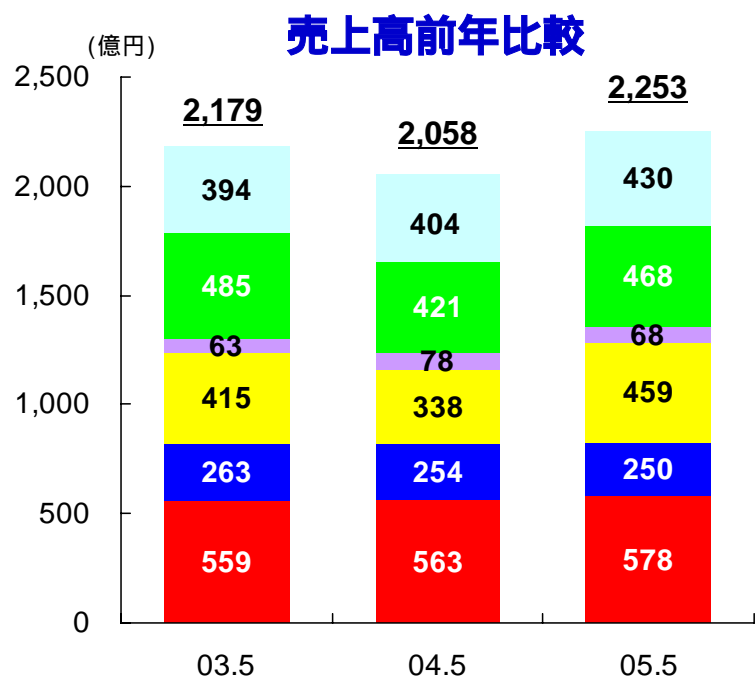
- ・ 改善努力で、着実に影響を軽減
- ・ 鶏卵相場は下期も高値基調が継続、食油相場は安定化へ

相場状況

(円/kg)	上期(12月～5月)			下期(6月～11月)	
	04年	05年	前年差	04年	05年
鶏卵	138	246	+108	188	210前後
食油	126	142	+16	153	140前後

05.5期
事業別売上高の状況

サラダまわり調味料と周辺事業が売上高を牽引



■ マヨネーズ・ドレッシング事業 ■ フルーツ加工・調理食品事業
 ■ タマゴ事業 ■ ヘルスケア事業
 ■ 野菜とサラダ事業 ■ 物流システム事業

05.5期の状況 (詳細数値 P.18)

(億円)

	05.11 期初計画	04.5	05.5	前年増減	前年比	進捗率
マヨネーズ・ドレッシング事業	1,148	563	578	15	102.7%	50.3%
フルーツ加工・調理食品事業	511	254	250	4	98.4%	48.9%
タマゴ事業	889	338	459	121	135.8%	51.6%
ヘルスケア事業	151	78	68	10	87.2%	45.0%
野菜とサラダ事業	970	421	468	47	111.2%	48.2%
物流システム事業	831	404	430	26	106.4%	51.7%
合計	4,500	2,058	2,253	195	109.5%	50.1%

鶏卵相場による売上高への影響は、前年比51億円増

マヨネーズ・ドレッシング事業

- ・ドレッシングの大幅増で事業を牽引
- ・マヨネーズは減少に歯止めをかけ、回復基調へ

フルーツ加工・調理食品事業

- ・ジャムは低糖度タイプのリニューアルで拡大
- ・CVSベンダーの内製化で調理食品などが減収

タマゴ事業

- ・販売価格の改善などが寄与
- ・販売移管による決算期調整、相場高の影響で増収

ヘルスケア事業

- ・医薬向け設備受注が下期に移行し9億円減収

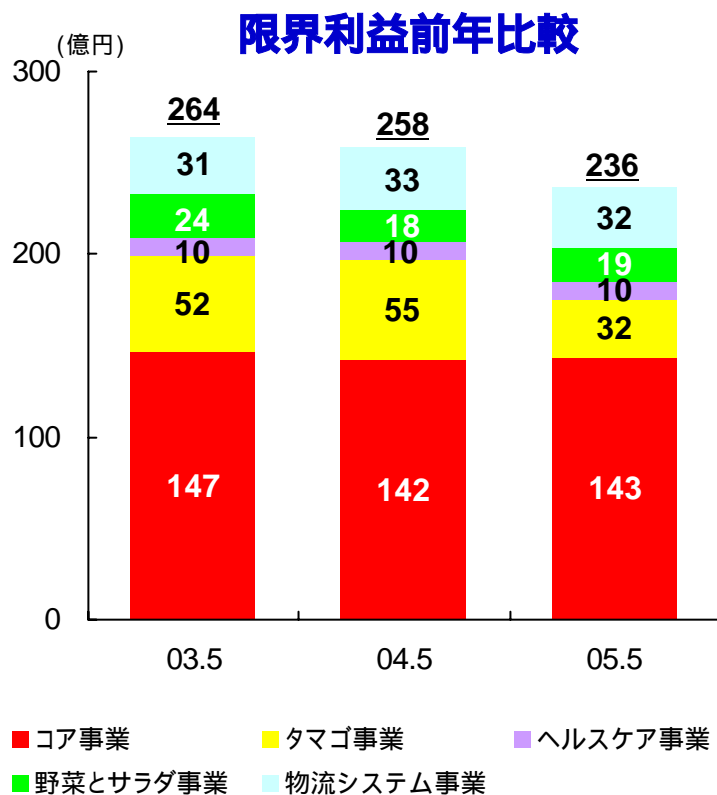
野菜とサラダ事業

- ・CVSベンダーの新工場が大きく寄与

物流システム事業

- ・顧客の物流エリア拡大に対応し増収

大幅な原料高が利益を圧迫



05.5期の状況 (詳細数値 P.18) (億円)

	05.11 期初計画	04.5	05.5	前年増減	前年比	進捗率
コア事業	264	142	143	1	100.7%	54.2%
タマゴ事業	109	55	32	23	58.2%	29.4%
ヘルスケア事業	23	10	10	0	100.0%	43.5%
野菜とサラダ事業	53	18	19	1	105.6%	35.8%
物流システム事業	74	33	32	1	97.0%	43.2%
合計	523	258	236	22	91.5%	45.1%

コア事業

•原料高の利益影響14億円受けるも増益

- ドレッシング、低糖度ジャムのリニューアルによる売上増が利益に寄与
- 販促金の効果的運用を実施

タマゴ事業

•原料高の利益影響33億円を圧縮するがカバーできず

- 期初想定相場に基づく販売価格改善で17億円増益
想定以上の相場高への対応が遅れる
- 販売価格の急上昇による数量減が生産コストに影響
- 米国子会社の事業環境悪化で4億円減益

野菜とサラダ事業

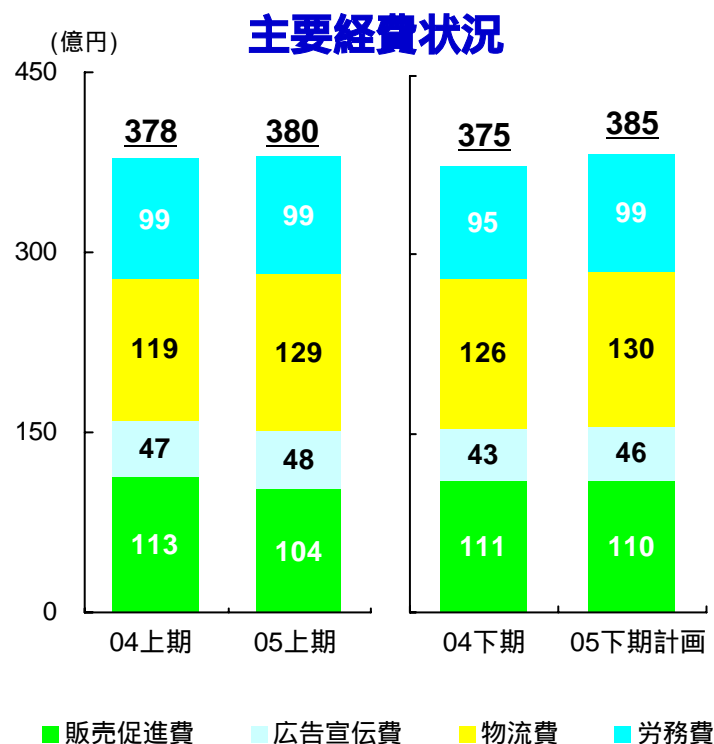
•野菜原料高の利益影響4億円をカバーし増益

物流システム事業

•新規拠点の立ち上げ費用増が影響

05.11期
主要経費の状況

販売促進費の効果的運用を推進



販売促進費

- 04年下期以降の効果的運用で年間10億円減

広告宣伝費

- 店頭と連動した商品の用途拡大を継続

物流費

- 日配品の販売数量増加などで年間14億円増
- 売上高比率は前年を維持

労務費

- 04年タマゴ事業の決算期調整で3億円増
- 社会保険料、労務諸費の増加

05.5期の状況

(億円)

	04.5	05.5	前年増減	前年比
販売促進費	113	104	9	92.0%
広告宣伝費	47	48	1	102.1%
物流費	119	129	10	108.4%
労務費	99	99	0	100.0%
(内 退職給付関連費用)	10	8	2	80.0%

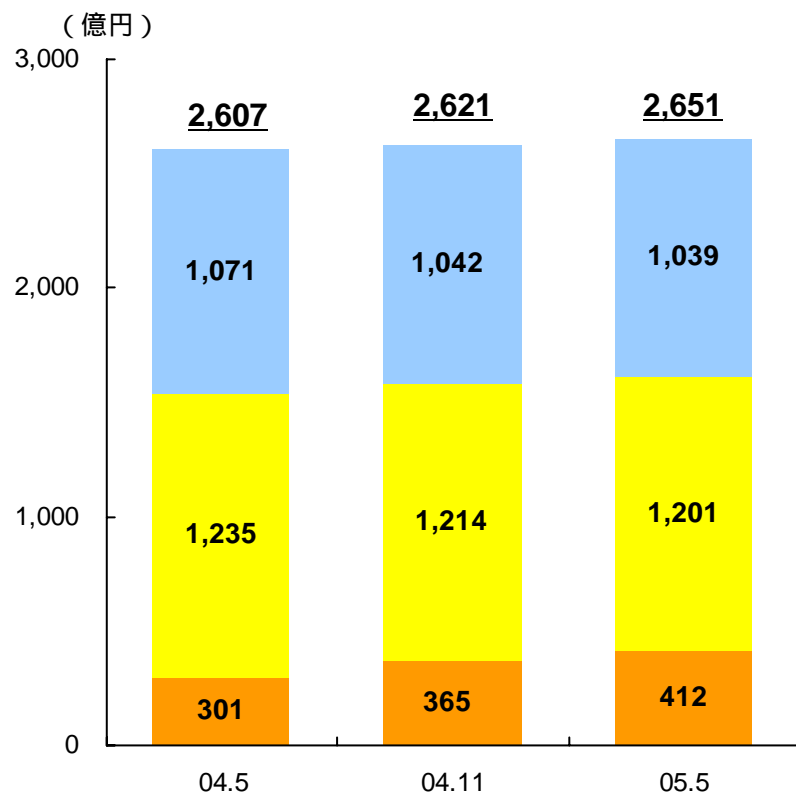
05.11期実行計画の内訳

(億円)

	04.11	05.11 実行計画	前年増減	前年比
販売促進費	224	214	10	95.5%
広告宣伝費	90	94	4	104.4%
物流費	245	259	14	105.7%
労務費	194	198	4	102.1%
(内 退職給付関連費用)	17	15	2	88.2%

05.5期
バランスシートの状況
(資産)

総資産のポイント



■ 投資その他の資産 ■ 有形・無形固定資産 ■ 流動資産

繰延資産は投資その他の資産に含めて表記しております

04.11期との比較

・流動資産の減少

3億円

- ・現預金の減少 74億円
- ・売上高増加等による営業債権の増加 +55億円
- ・棚卸資産の増加 +20億円

《在庫回転率は前年維持》

・有形・無形固定資産の減少

14億円

- ・取得による増加 +50億円
- ・減価償却による減少 59億円

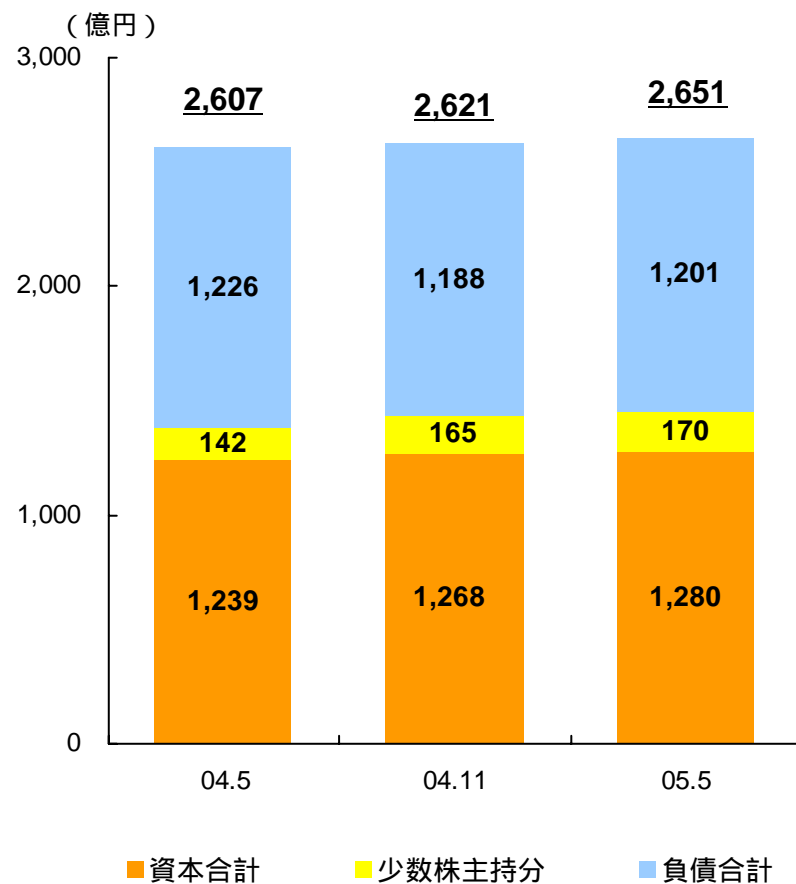
・投資その他の資産の増加

48億円

- ・投資有価証券は株式評価上昇 +13億円
- ・前払年金費用の増加 +21億円

05.5期
バランスシートの状況
(負債、資本)

負債・資本のポイント



04.11期との比較

・負債の増加 **13億円**

- ・営業債務の増加 + 10億円
- ・役員退任慰労引当金の減少 6億円
- ・退職給付引当金の増加 + 4億円

C B (186億円) は有利な資金調達で05.11に償還予定

・少数株主持分の増加 **4億円**

・資本の増加 **12億円**

- ・利益剰余金の増加 + 11億円
- ・その他有価証券差額金の増加 + 6億円
- ・自己株式の取得 2億円

05.5期
キャッシュ・フローの
状況

キャッシュ・フローのポイント

(億円)

	04.5	05.5	増減	内容
営業活動による キャッシュ・フロー	74	10	64	・税金等調整前中間純利益の減少 24 ・売上債権の増加 72 ・仕入債務、未払金の増加 45
投資活動による キャッシュ・フロー	50	68	18	・有形固定資産の取得による支出の減少 14 ・貸付金の増加 9 ・定期預金の払戻の減少 18
財務活動による キャッシュ・フロー	62	11	51	・借入金の返済額の減少 44 ・社債の償還の減少 10
現金及び現金同等物 の増減	39	69	30	
現金及び現金同等物 の中間期末残高	161	96	65	

05.11期 下期実行計画

- (注)
- ・表示単位未満の数値を四捨五入しています。
 - ・「05.11期 下期実行計画」は、05.5期の業績を考慮した計画です。
 - ・「限界利益」は売上総利益から販売促進費や物流費などの販売直接費を控除した利益です。

05.11期 実行計画（年間）

(億円)

	04.11期	05.11期 実行計画	前年差	前年比	05.11期 期初計画
売上高	4,237	4,550	313	107.4%	4,500
営業利益	157	132	25	84.1%	168
経常利益	155	130	25	83.9%	163
当期純利益	70	57	13	81.4%	78

05.11期実行計画を04.11期業績と比較する際には、以下の内容を考慮してご確認ください。

事業	内容	売上高	限界利益	営業利益
タマゴ事業	素材品の販売移管による決算期調整の戻り	+70億円	+7億円	+1億円

05.11期 下期実行計画

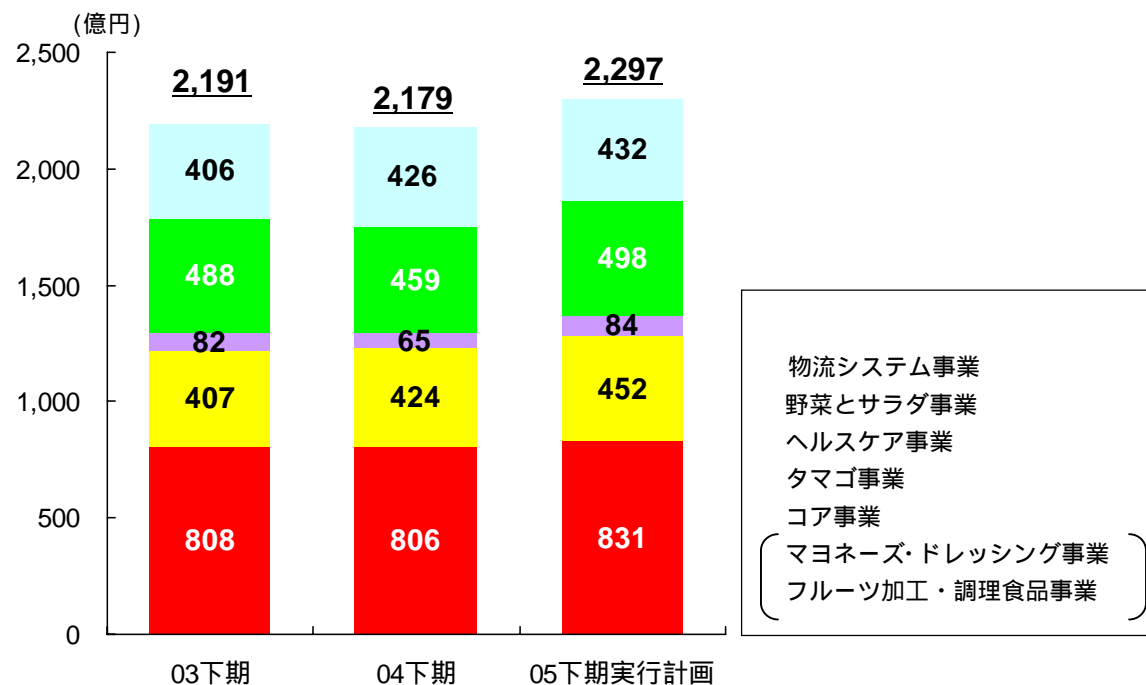
売上は拡大、限界利益は原料高を乗り越えて増加

(億円)

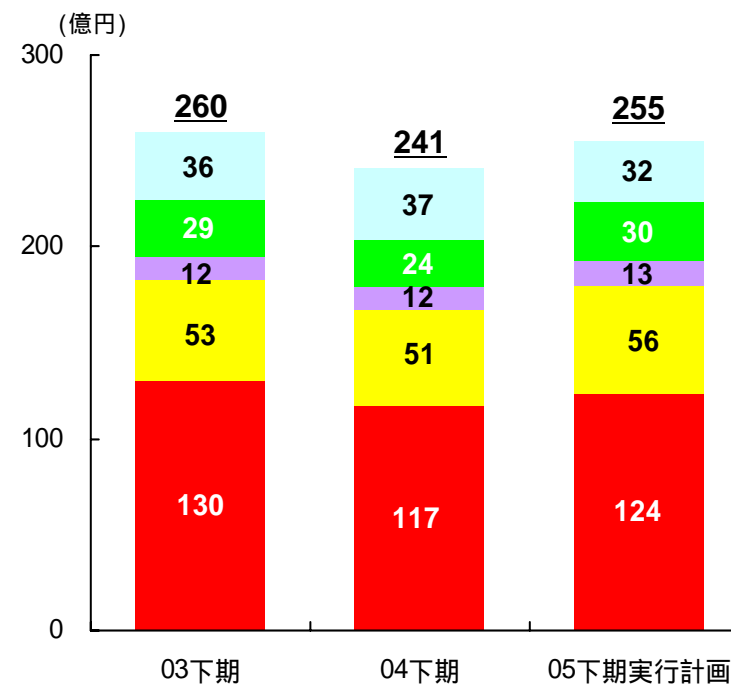
	04下期	05下期 実行計画	前年差	前年比	05下期 期初計画
売上高	2,179	2,297	118	105.4%	2,263
限界利益	241	255	14	105.8%	-
営業利益	74	74	± 0	100.0%	100
経常利益	73	74	1	101.4%	97
下期純利益	35	35	± 0	100.0%	50

05.11期 下期事業別実行計画

事業別売上高計画



事業別限界利益計画



05.11期 下期実行計画の内訳

<売上高> (年間数値 P.18)

(億円)

	03下期	04下期	05下期 実行計画	前年増減	前年比
コア事業	808	806	831	25	103.1%
タマゴ事業	407	424	452	28	106.6%
ヘルスケア事業	82	65	84	19	129.2%
野菜とサラダ事業	488	459	498	39	108.5%
物流システム事業	406	426	432	6	101.4%
合計	2,191	2,179	2,297	118	105.4%

<限界利益> (年間数値 P.18)

(億円)

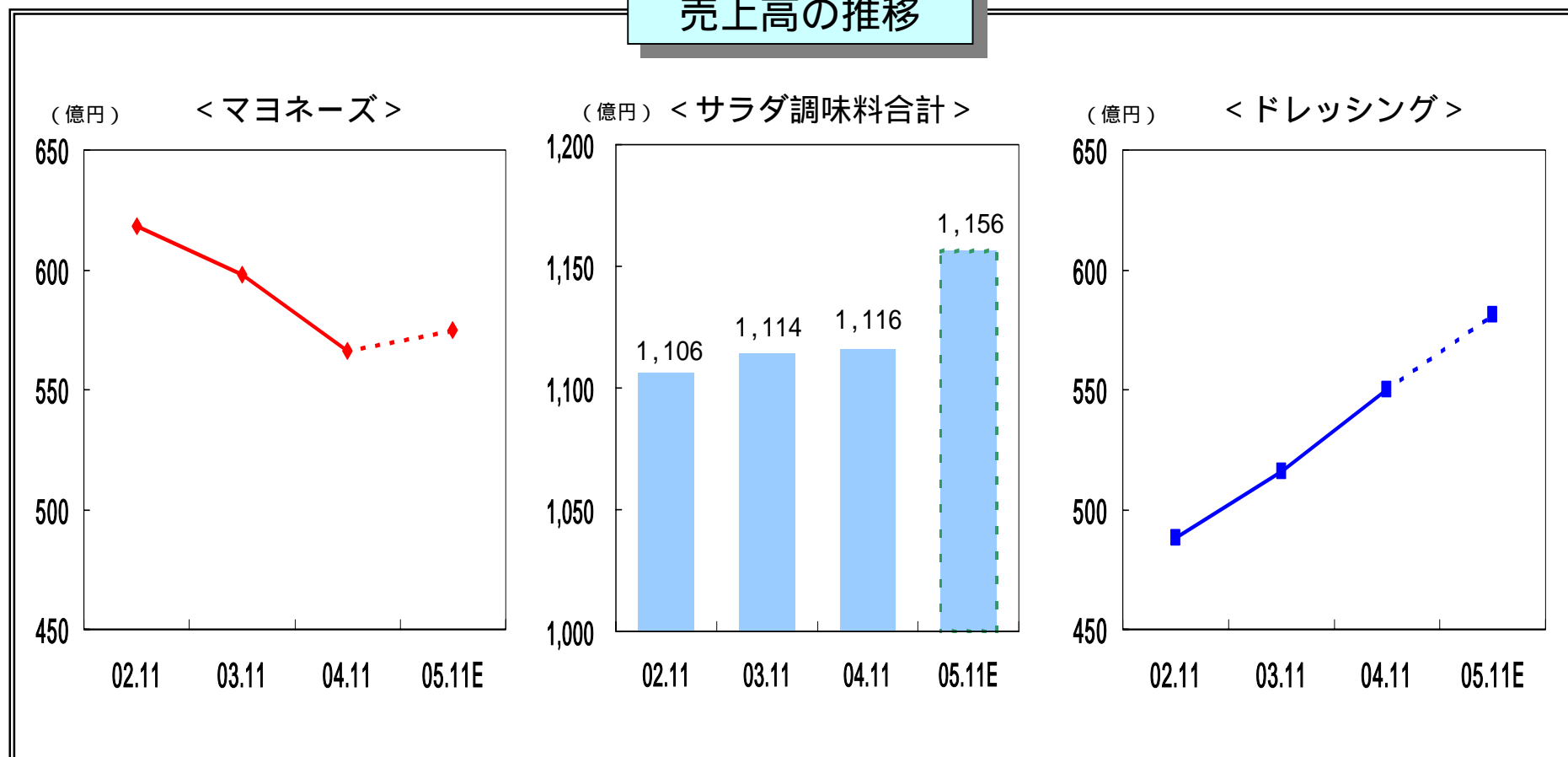
	03下期	04下期	05下期 実行計画	前年増減	前年比
コア事業	130	117	124	7	106.0%
タマゴ事業	53	51	56	5	109.8%
ヘルスケア事業	12	12	13	1	108.3%
野菜とサラダ事業	29	24	30	6	125.0%
物流システム事業	36	37	32	5	86.5%
合計	260	241	255	14	105.8%

サラダまわり調味料は拡大

マヨネーズは増加へ転換

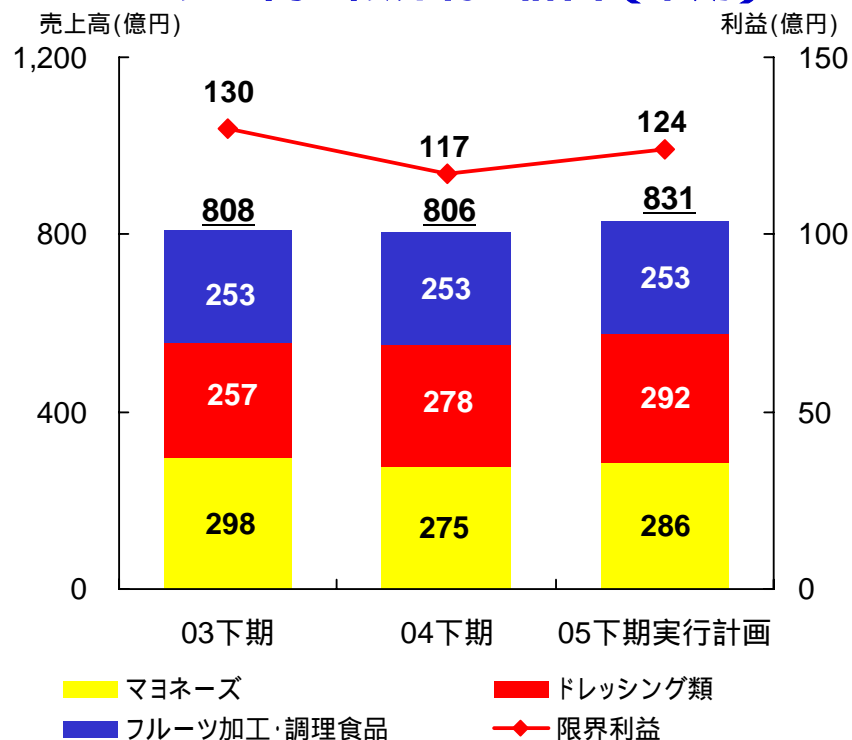
ドレッシングは拡大

売上高の推移



サラダまわり調味料の拡大で増収増益

売上高・限界利益計画（下期）



05.11期 下期実行計画の内訳 (年間数値 P.18) (億円)

	03下期	04下期	05下期 実行計画	前年増減	前年比
マヨネーズ	298	275	286	11	104.0%
ドレッシング	257	278	292	14	105.0%
小計	555	553	578	25	104.5%
フルーツ加工・調理食品	253	253	253	0	100.0%
合計	808	806	831	25	103.1%
限界利益	130	117	124	7	106.0%

1. 健康訴求タイプを強化し、市場を牽引

- マヨネーズは健康訴求タイプの育成を継続

健康訴求タイプ 売上高 7 億円増

- ドレッシングはノンオイルカテゴリーの攻略を推進

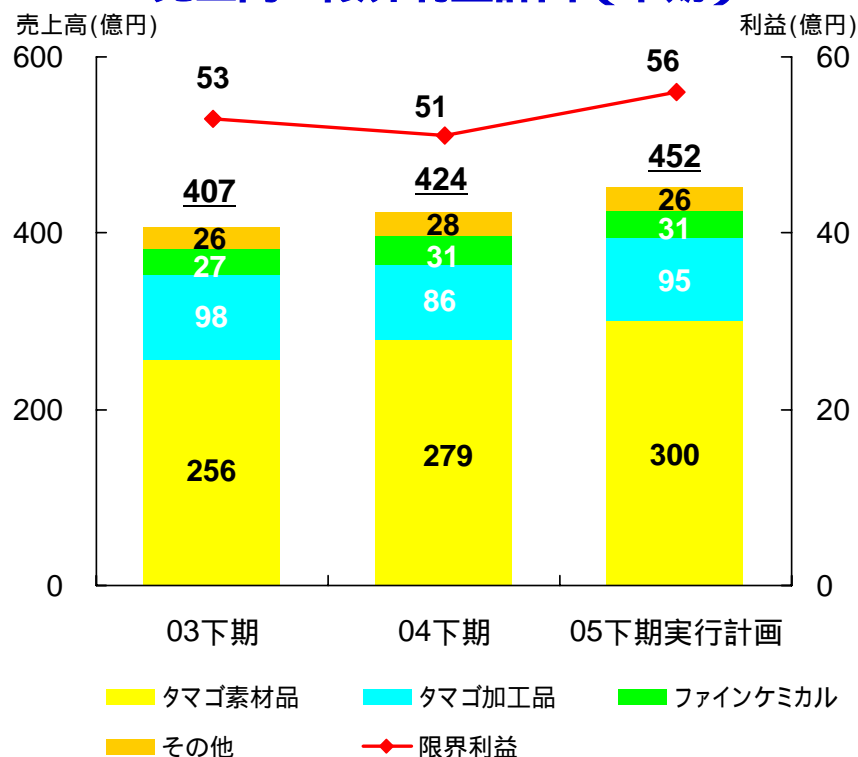
ノンオイルドレッシング 売上高 3 億円増

2. 主力商品の拡大で利益を確保

- 家庭用キューピーマヨネーズの強化
少人数世帯向け容量の着実な育成
- 業務用マヨネーズは耐冷耐熱など機能強化商品で需要拡大
- ドレッシングは金カップシリーズを引き続き拡大
- 好調な低糖度ジャムは、バラエティ商品を積極展開

鶏卵相場への対応力向上で下期増益を見込む

売上高・限界利益計画（下期）



05.11期 下期実行計画の内訳(年間数値 P.18) (億円)

	03下期	04下期	05下期 実行計画	前年増減	前年比
タマゴ素材品	256	279	300	21	107.5%
タマゴ加工品	98	86	95	9	110.5%
ファインケミカル	27	31	31	0	100.0%
その他	26	28	26	2	92.9%
合計	407	424	452	28	106.6%
限界利益	53	51	56	5	109.8%

鶏卵相場による売上高への影響は、前年比18億円増

1. 相場への対応で限界利益は5億円増益

- 相場に連動した価格政策を継続
- 生産コストの低減
- 海外調達品の活用

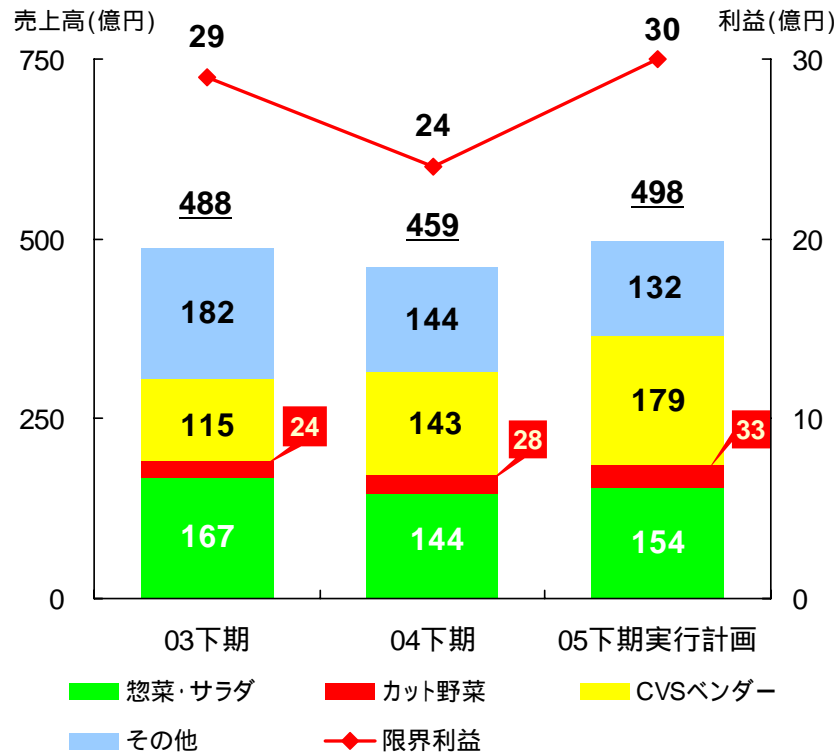
2. タマゴ加工品は付加価値商品を更に拡大

- 付加価値NB品は5億円増収
- 新製品を積極投入

3. 米国子会社の事業環境の回復が遅れ3億円減益

商品開発力と効率化で売上・利益を拡大

売上高・限界利益計画（下期）



1. サラダの領域を拡大し、惣菜・サラダは増収



生春巻きサラダ



サラダ麺

上記商品で売上高 5 億円増

2. カット野菜は5億円増収

•取り扱い店舗数の拡大

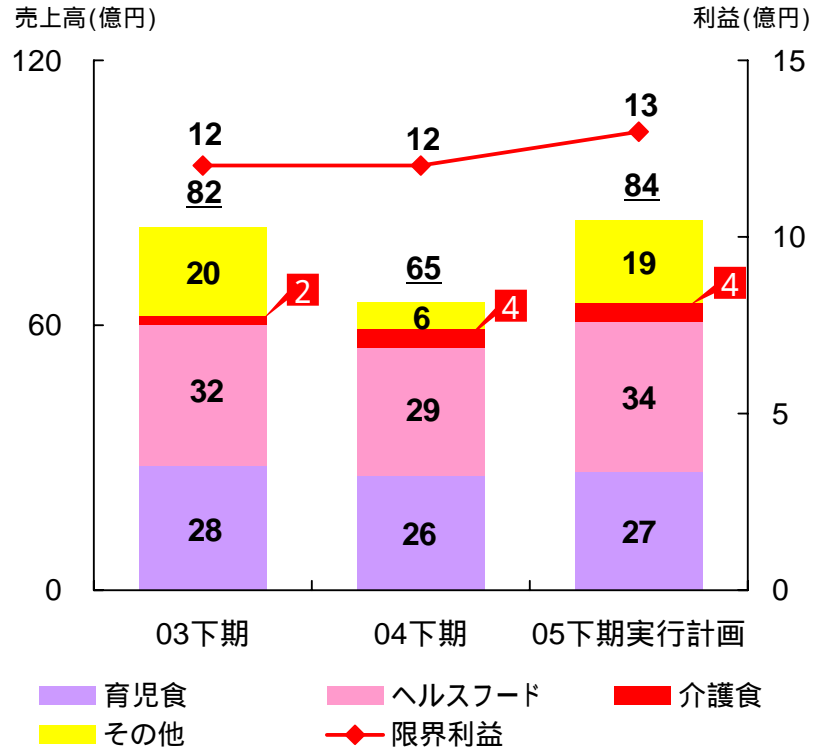
4,400店 5,000店以上へ

3. CVSベンダーの増収、惣菜各社の生産コスト低減が貢献

05.11期 下期実行計画の内訳 (年間数値 P.18) (億円)

	03下期	04下期	05下期 実行計画	前年増減	前年比
惣菜・サラダ	167	144	154	10	106.9%
カット野菜	24	28	33	5	117.9%
CVSベンダー	115	143	179	36	125.2%
その他	182	144	132	12	91.7%
合計	488	459	498	39	108.5%
限界利益	29	24	30	6	125.0%

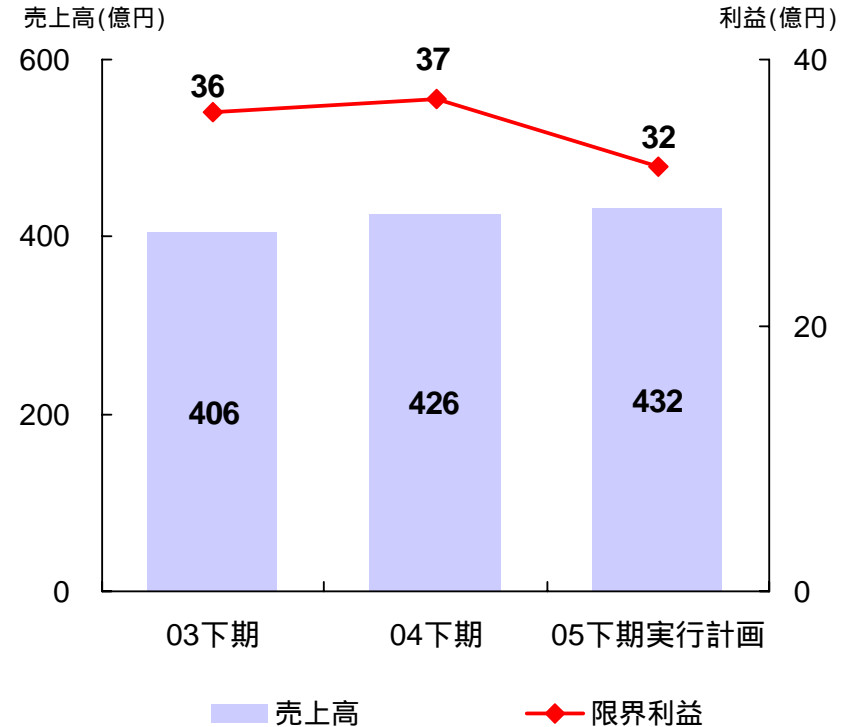
売上高・限界利益計画（下期）



ヘルスフード、医薬向け設備拡大で増収・増益

- 流動食は営業体制強化で、導入施設を拡大
- 医薬メーカー向け設備の受注が寄与

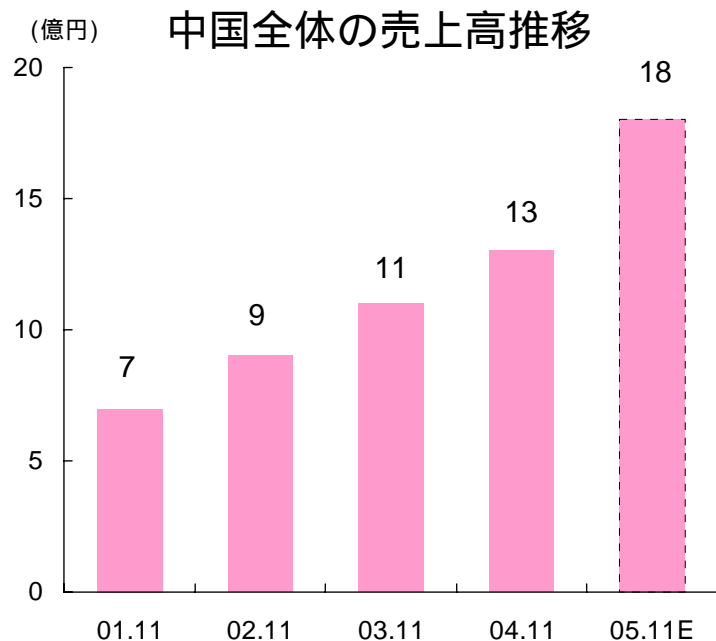
売上高・限界利益計画（下期）



外的なコスト上昇要因が利益を圧迫

- 運送効率改善などのコストダウンを実施も、燃料コスト高などが影響

中国事業の進展状況



《現在の進め方》

拡大する業務用市場に積極的に展開

- 外食産業、CVSの伸張により市場拡大

ブランド強化を目的に広告宣伝を実施

- 料理・女性雑誌へのブランド広告
- 地下鉄、観覧バスを利用した広告

上期主力商品の状況

マヨネーズ



前年対比125%

ジャム



前年対比105%

- 業務用マヨネーズ 前年対比160%

新商品動向

カロリーーフマヨネーズタイプを04年12月に発売
1,000店舗以上に配荷:順調に拡大

北京新工場は11月稼働予定

今後の需要拡大と業務用大手ユーザーに対応

生産能力 6,500t / 年 (現工場3,800t / 年)

生產品目 業務用マヨネーズ、家庭用主力商品

業績、計画数値のまとめ

(億円)

	01.5	02.5	03.5	04.5	05.5	04.11	05.11計画
売上高	1,957	2,134	2,179	2,058	2,253	4,237	4,550
マヨネーズ・ドレッシング事業	547	555	559	563	578	1,116	1,156
マヨネーズ	307	312	300	291	289	566	575
ドレッシング	240	243	259	272	289	550	581
フルーツ加工・調理食品事業	260	268	263	254	250	507	503
タマゴ事業	373	385	415	338	459	762	911
タマゴ素材品	243	259	267	196	323	475	623
タマゴ加工品	91	96	95	94	90	180	185
ファインケミカル	20	20	26	27	29	58	60
その他	19	10	27	21	17	49	43
ヘルスケア事業	60	70	63	78	68	143	152
育児食	24	26	26	24	25	50	52
ヘルスフード	20	26	29	33	29	62	63
介護食	1	2	2	1	3	5	7
その他	14	16	6	20	11	26	30
野菜とサラダ事業	410	465	485	421	468	880	966
惣菜・サラダ	112	142	162	147	136	291	290
カット野菜	3	8	22	23	30	51	63
CVSベンダー	89	92	102	114	166	257	345
その他	206	223	199	137	136	281	268
物流システム事業	307	391	394	404	430	830	862
限界利益	250	263	264	258	236	499	491
コア事業	150	144	147	142	143	259	267
タマゴ事業	53	52	52	55	32	106	88
ヘルスケア事業	12	10	10	10	10	22	23
野菜とサラダ事業	9	24	24	18	19	42	49
物流システム事業	26	33	31	33	32	70	64
販売促進費	98	117	106	113	104	224	214
広告宣伝費	45	41	45	47	48	90	94
物流費	111	118	123	119	129	245	259
労務費	100	102	93	99	99	194	198
(内、退職給付関連費用)	-	-	7	10	8	17	15
設備投資	70	102	76	74	50	138	113
減価償却費	49	55	61	60	59	126	124

注意事項

この説明会資料に掲載されている、キューピー株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得られたキューピー株式会社の経営者の判断に基づいており、過度の信用を置かれませぬようお願いいたします。

内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

また、この説明会資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。